



2008

おいしい笑顔をお届けします
環境報告書

Shimadaya Corporation

Environmental Report

シマダヤの商品がお手元に届くまで

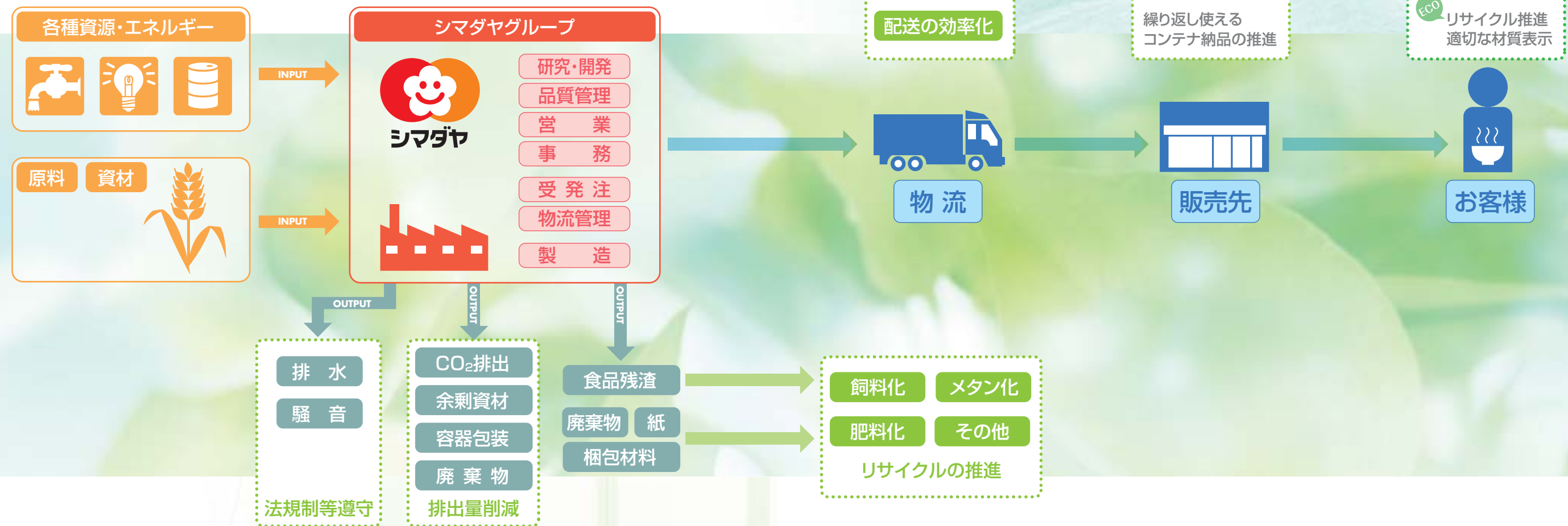
シマダヤグループでは、小麦をはじめとする原料や資材、水や燃料などの資源およびエネルギーなどを購入し、商品を生産・販売しています。

商品がお客様のお手元に届くまで、各段階で様々な環境負荷がかかっており、

シマダヤグループでは

- 1. エネルギー使用量の削減
- 2. 水使用量の削減
- 3. 廃棄物排出量の削減

を大きな課題としてとらえています。



2008 Environmental Report

会社概要

社名 シマダヤ株式会社
 設立 1949年3月
 資本金 10億円
 代表者 代表取締役社長 木下紀夫
 従業員数 289名(2008年3月現在)
 事業内容 めん類及び関連食品の販売
 本社所在地 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11
 売上高 350億円(2007年度実績)
 事業所数 本社:1
 支店:3
 ロジスティクスセンター:1
 開発研究所:1
 品質管理センター:1
 事務所:1
(※2007年度に2事業所閉鎖)
 URL <http://www.shimadaya.co.jp>

社名 東京シマダヤ株式会社
 設立 2004年4月1日
 資本金 5,000万円
 代表者 代表取締役社長 大星由雄
 従業員数 111名(2008年3月現在)
 事業内容 ゆでめん類製造・販売
 所在地 東京都昭島市武蔵野2-1-22

対象範囲

対象組織 シマダヤ株式会社 東京シマダヤ株式会社
 対象期間 2007年4月～2008年3月(活動については直近のものを含む)
 対象分野 環境的側面に関する事項
 発行 2008年8月発行(前回発行2007年8月)
(次回発行は2009年8月予定)



代表取締役社長

木下紀夫

ごあいさつ

昨年から続く穀物高騰による小麦の値上がりや、世界的な原油価格高騰による燃料や資材が値上がりするなど、食品業界全体は激動の時代を迎えています。これは地球温暖化を原因とする天候異変による作物不作や、原油高騰によるバイオエタノール原料への転換など、食糧供給問題を含め環境問題を抜きに語れません。食品を供給するメーカーとして、複雑に絡み合う環境問題を真剣に考えなければならない時期にきたことを実感しています。

そのような中、シマダヤでは2007年に「中期環境目的・目標」を策定し3年間にわたる環境取り組みを開始しました。今号の報告書では、取り組み初年度の結果をご報告致します。初年度の達成状況の評価は、容器包装(プラスチック)削減を除き、他のいずれの目的も初年度の目標を大きく上回ることができました。特に当社の重要な課題である、廃棄物の削減については、生産部門、物流部門、営業部門でそれぞれの立場で、テーマを決め削減に取り組み、結果を出すことができました。

2007年度の環境活動の結果を個別に見ますと、シマダヤの電気使用量は前年比約8%削減できました。これは、2事業所を閉鎖したことが大きく影響しておりますが、クールビズやウォームビズの実施など、地道な省エネ活動も多少なりとも効果があったと感じています。また、ガソリン使用量も環境取組を開始してから初めて削減が目に見える形となりました。車両台数の削減、低公害車の導入、及び効率的な営業活動など車の使用方法を見直した成果が出たものと思います。

東京シマダヤでは、電気、重油、水の使用量は減少しましたが、生産アイテムの変更による生産設備の構成が変わったため、原単位(生産数量あたりの使用量)で見ると、前年比、重油で1.3%削減したものの、電気で6%増加してしまいました。また水の使用量は同じく原単位で8%と大きく削減できました。

現在、シマダヤは製造部門子会社の東京シマダヤとともに環境取り組みを行っておりますが、環境負荷は、製造を委託している工場で使用する電気やボイラー燃料などのエネルギー使用が圧倒的に大きいため、炭酸ガス排出量の削減はグループ全体で行なっていく必要があります。そのため、今年度よりシマダヤが主導しグループ全体で環境取り組みを行っていくことを決定しました。まずは、2009年度末までにISO14001の登録範囲を子会社工場に拡大していきます。

このように、2009年度までの中期環境目的の達成と、子会社への環境取り組みの拡大により、シマダヤは微力ながら、環境問題の面で社会へ貢献していきたいと考えます。

シマダヤグループ環境基本方針

環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。
シマダヤグループは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

環境行動指針

- 1. 環境関連法規の遵守** 社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。
- 2. 資源、エネルギーの有効利用** 資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組みとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。
- 3. 継続的な環境改善** 事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。
- 4. 環境保全意識の醸成** 情報収集及び教育を徹底的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。
- 5. 情報の公開** 環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します。

グループ会社への環境取り組み拡大を目指し、シマダヤ環境基本方針を、「シマダヤグループ環境基本方針」に2008年6月25日付で改訂しました。

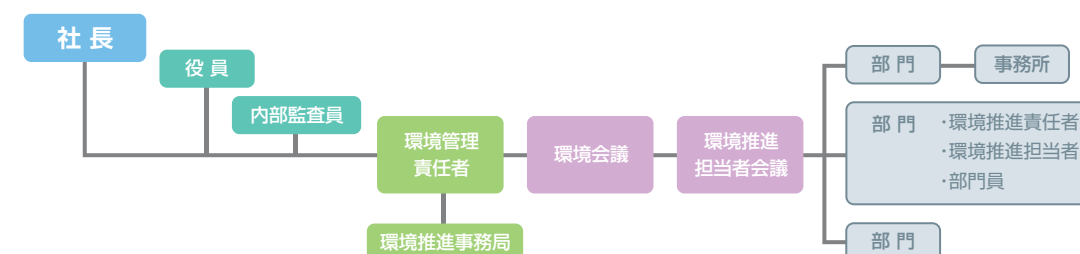
シマダヤグループの環境保全活動について

当社の環境保全活動は、現在シマダヤ(株)(営業・管理・研究開発・物流)と東京シマダヤ(株)(生産工場)が一丸となり進めています。活動の基本的な単位は「部門」です。東京シマダヤ(株)環境マネジメントシステム上はひとつの「部門」として捉え、各部門において、部門の業務に沿った目的・目標を掲げ、プログラムを実施しています。

活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者
	環境管理責任者	全社の活動の責任者
	環境推進事務局	環境管理責任者の補佐
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者。原則として部門長。
	環境推進担当者	部門活動のリーダー。各部門1名以上。
事業所の推進役	事業所責任者	事業所単位の課題に関する責任者。複数部門が属する事業所や環境推進責任者のいない事業所(事務所など)に設置。

環境推進組織図



共通の目標を設定し、継続的な改善を進めています

中期環境目的・目標 初年度達成状況

当社ではこれまで、毎年設定される環境目的・目標指針に基づき各部門で目的・目標を立て、その目的・目標を達成するためのマネジメントプログラムを作成し、日々それぞれの立場で業務として取り組みを行ってきました。今後は、全社をあげて更に取り組みを強化すべく、2009年度

までの3か年に亘る全社の中期環境目的・目標を策定しました。

2007年度は取り組みの初年度にあたり、それぞれの目標に対し年度毎の数値目標を策定しました。年度毎の数値目標と、初年度の達成状況は下記のとおりです。

●中期環境目的・目標 初年度進捗状況

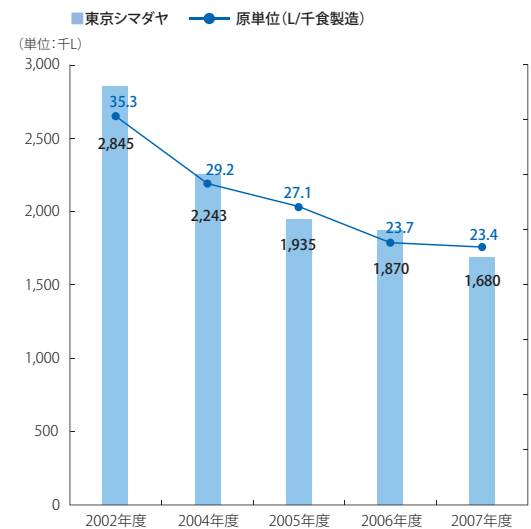
中期目的	2007年度目標	単位	実績				評価	参照ページ	
			基準年	2007年度	削減量	削減%			
廃棄物重量削減 50%削減 (1,078→539ton)	20%削減 (シマダヤ: △93ton) (東京シマダヤ: 122ton)	シマダヤ食品廃棄物	467	261	△206	44.2%	◎	p07	
		東京シマダヤ廃棄物	611	328	△283	46.4%	◎		
		合計重量	1,078	589	△490	45.4%	◎		
容器包装重量削減 30%削減 (2,693→1,885ton)	10%削減 (△269ton) (原単位△0.60)	使用重量	2,693	2,468	△225	8.4%	×	p08	
		(原単位)	g/食	5.97	5.40	△0.57	9.6%		△
余剰資材削減(金額) 30%削減 (58.8百万→41.2百万)	10%削減 (△5.9百万)	廃棄金額	百万円	58.8	40.2	△18.6	31.6%	◎	p08
炭酸ガス排出量削減 10%削減 (8,840→7,956ton)	5%削減 (シマダヤ: △110ton) (東京シマダヤ: △332ton)	シマダヤ	2,201	1,956	△245	11.1%	◎	p09	
		東京シマダヤ	6,639	6,124	△515	7.8%	◎		
		合計	8,840	8,080	△760	8.6%	◎		
		[原単位]							
		シマダヤ(原単位)	g/食	3.10	2.72	△0.38	12.1%	◎	
		東京シマダヤ(原単位)	g/食	92.8	85.5	△7.3	7.9%	◎	

●その他の環境取り組み

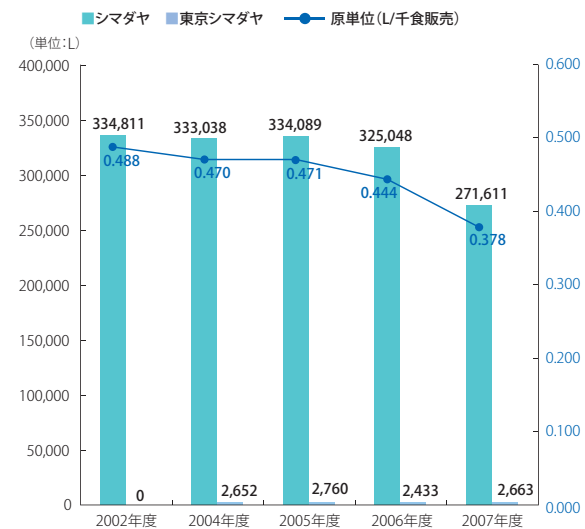
社会貢献の拡大	管理部門	お客様の声検討委員会、工場見学等実施、環境報告書充実	◎	p11~12
社外等へ間接的な環境影響を及ぼす目的	管理部門	業務効率化によるOA用紙の削減	◎	p10~12
	全部門	廃棄物の分別・リサイクルの推進、法規制等の遵守、継続的な教育	◎	
	東京シマダヤ	水使用量削減、法規制等遵守、騒音対策	△	

省資源・省エネルギーに努めています

重油使用量の推移

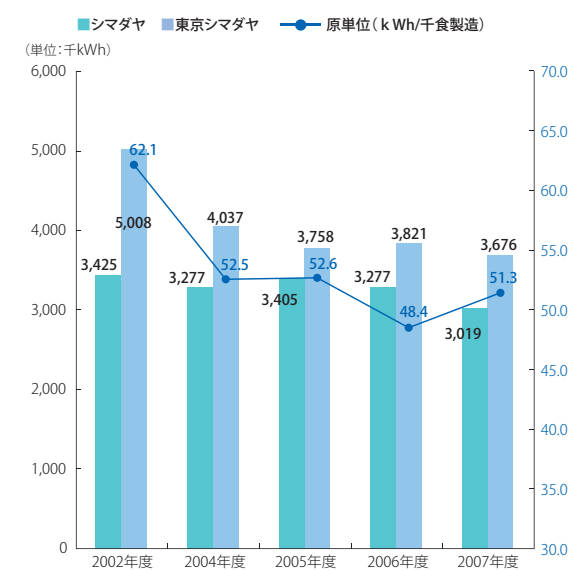


ガソリン使用量の推移



省資源・省エネルギーに努めています

電気使用量の推移



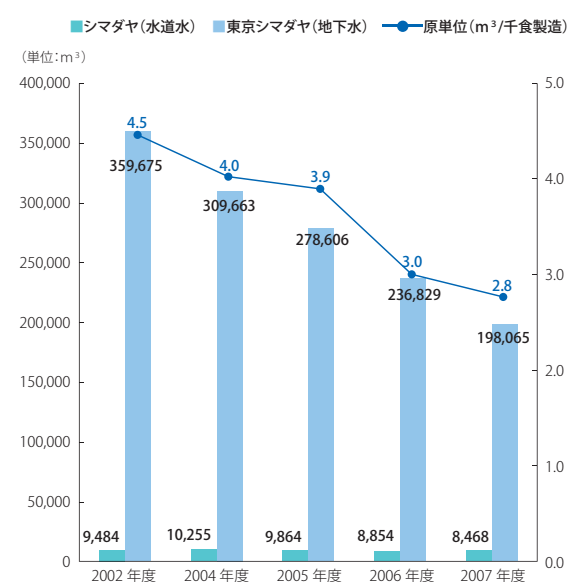
CO₂排出量係数について

当社では、燃料使用によるCO₂排出量を環境省地球環境局の「事業所からの温室効果ガス排出量算定ガイドライン」の単位発熱量および排出係数を使用して算出しています。また、電気によるCO₂排出量の換算係数は、東京電力が発表している「CO₂排出量原単位」を使用しています(一部支店は他電力会社ですが1%未満の構成比です)。2007年度の東京電力は、新潟県中越沖地震の影響により柏崎刈羽原子力発電所が停止し、これによって不足した発電量が火力発電でまかなわれました。そのため、2007年度のCO₂排出量原単位は、0.425kg-CO₂/kWhとなり前年度より約25%増加しました。

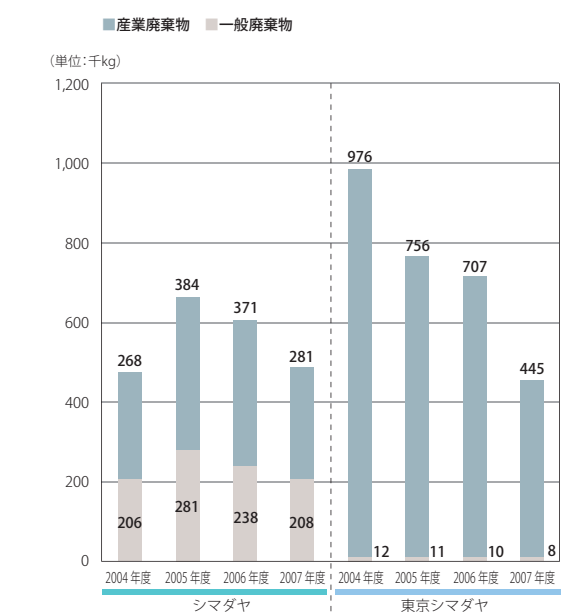
今後も、原子力発電の稼働再開の目途がたたず、電気使用量を削減してもCO₂排出量は増加するという厳しい状況が続くことが予想されます。そのため様々な工夫により節電の努力をしていきます。



水使用量の推移



廃棄物の排出量



廃棄めん重量削減のために

廃棄めんの発生要因

工場では、麺線を切り出す工程のめん帯の厚みや切り出し速度の調整不良、及び、ゆで上げから冷却工程への移し替え時のタイミング不良、並びに、包装工程において生産アイテムの切換え時及び包装機の不調などにより量目の軽・過量品や包装不良品などの廃棄が発生します。

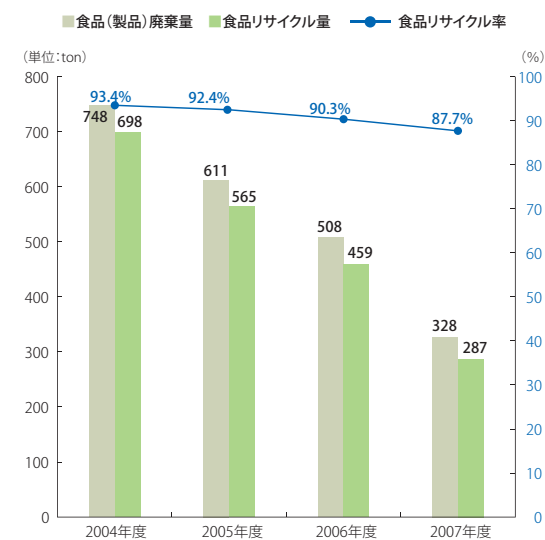
営業では、取引先からの受注の数量を、ある程度事前に予測して(販売見込み)生産部門に発注をかけます。しかしながら、天候等の要因により、販売数量が生産数量を下回ってしまう場合があります。その差が、ロジスティクスセンターや工場、倉庫等で、廃棄めんとして発生してしまいます。また、取引先に対するプレゼンテーションの際、商品見本や試食として使用したものが廃棄として残る場合もあります。

廃棄めんを発生させないために…

工場の廃棄めん重量削減の取り組みとして、各工程部署において量目不良削減にポイントをおいた生産ラインのメンテナンスの実施、および、スキルマップを基に適切な人員配置と教育の実施を行っています。その結果、2007年度の廃棄めんは2005年度比20%削減の目標に対し、46.4%削減と目標を大きく達成しました。

営業においては、生産管理の部門と連携を密にし販売見込みの精度をあげる努力をしています。また、賞味期限の長い冷凍めんの在庫管理をきちんと行い、不良在庫とならないよう取り組んでいます。その結果、2005年度比20%削減の目標に対し、44.2%削減と目標を大きく達成しました。

●東京シマダヤにおける食品リサイクルの取り組み



食品リサイクル法への対応

当社では、食品リサイクル法へ対応するために、それぞれの立場で様々な取り組みを実施しています。

再生利用する

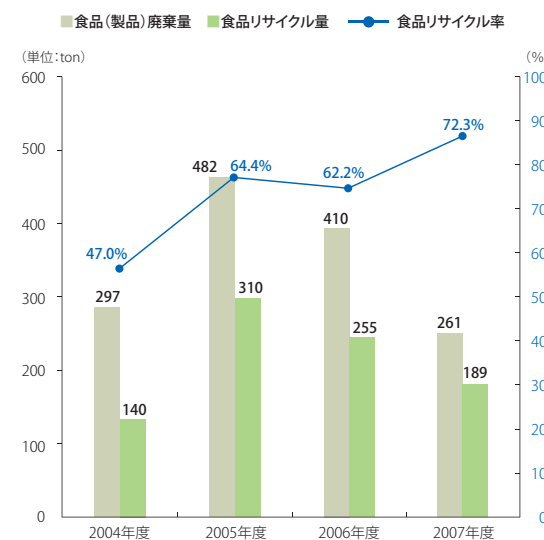
廃棄めんの発生抑制に務めていますが、それでも発生したものは、可能な限り分別を行ない、焼却処分とせず、飼料化原料としてリサイクルしています。東京シマダヤ及びロジスティクスセンターで発生した廃棄めんは、茨城県の飼料化工場に委託し、飼料原料として再生利用されています。また本社では、商談で発生する調理残や期限切れの商品見本は、その特性上飼料化できないため、東京スーパーエコタウンにあるバイオエナジー社に委託しメタンガス原料としてリサイクルしています。

また大阪支店で発生する廃棄めんは、三重県の飼料化工場に委託し、リキッドフィードとして養豚の飼料として再生利用しています。

また、これらの委託処理先を定期的に現地確認し、適切にリサイクル処理が行なわれているかを確認しています。

生産販売数量の増加により食品廃棄物量が増える傾向があるため、中期環境目的にも掲げていますが食品メーカーの責務として、引き続き減量化の努力と合わせてリサイクルに出す比率を高めていきます。

●シマダヤにおける食品リサイクルの取り組み



容器包装及び余剰資材削減のために

2007年度シマダヤは『資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組むと共に、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努める』という指針の基、主に「プラスチック容器包材重量の削減」、「余剰資材の削減」という2つのテーマを掲げています。

プラスチック容器包装重量削減のために

シマダヤグループで使用するプラスチック容器包材重量を10%削減することを目標とし、外包材サイズの短縮、一部商品の内袋フィルムサイズの短縮を実施しました。また、年越し時期のそば商品群においては、嵌合容器をトレー入りピロー包装へと形態変更し、トレーについても、プラスチックから紙に変更することで重量削減を図りました。

その結果、目標にはやや未達ではありましたが、2004年度と比較し、225,000kg分(-8.4%)のプラスチック容器包材重量を削減できました。2008年度以降は、トレー、ダンボール等他の資材による削減も視野に入れ、容器包材重量の削減を行っていきます。

●セミロングライフめん

3食入りのうどん・そばは、個包装のめんを3つ重ねて外包材で包み、袋状にして包装しています。この外包材の幅を1cm短縮しました。



包材の幅を短縮した商品

余剰資材削減のために

「余剰資材の削減」においては、①出荷予測・在庫管理の精度アップ、②包材・つゆメーカーとの協力体制の2つを重点テーマとして取り組みました。具体的には、重点商品を決め、計画数量と生産実績数量を一元管理表で捉えると共に、つゆメーカーとめん工場でその管理表を共有すること、並びに、季節商品の終売時には、資材メーカーに小ロット対応をしていただくなどの協力要請を行なうことにより、余剰資材の発生を抑えることができました。

2007年度は2005年度と比較し、全社で余剰資材を10%削減(金額)することを目標としました。その結果、2005年度と比較し、18,600千円(-31.6%)の大幅な削減を達成しました。今後も、継続して余剰資材の削減を実施していきます。

食品リサイクル法について

食品リサイクル法は、大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への転換が急がれる状況の中で、食品廃棄物等の排出の抑制と資源としての有効利用を推進するために平成12年に制定されたものです。

食品の製造、流通、消費、廃棄等の各段階で、食品廃棄物等に係るものが一体となって取り組む必要があります。まず、食品廃棄物等そのものの発生を抑制する。次に、再資源化できるものは飼料や肥料などへの再生利用を行う。再生利用が困難な場合に限り熱回収をする。さらに、再生利用や熱回収ができない場合は脱水・乾燥などで減量する、という方法が定められています。

平成19年12月の改正により、再生利用等の実施率目標(基準実施率)が定められました。毎年、その年度の基準実施率を上回ることが求められています。また、食品廃棄物等多量発生事業者*は毎年度、主務大臣に、食品廃棄物等の発生量や食品循環資源の再生利用等の状況を報告することが義務付けられました。

*食品廃棄物等の前年度の発生量が100トン以上の食品関連事業者

容器包装リサイクル法について

現在、家庭から出るゴミの約6割が容器包装廃棄物で占められています。その減量化と再資源化を促進するために、容器包装リサイクル法が制定されています。市町村の分別・収集の対象となる容器包装のうち、「ガラス製容器」、「ペットボトル」、「紙製容器包装」、「プラ

スチック製容器包装」の4種類は再商品化義務があります。シマダヤでは、プラスチック及び紙製容器包装が対象となるため、再商品化事業者に委託料金を支払い、再商品化を委託しています。

炭酸ガス排出量削減のために

工場での取り組み

炭酸ガス削減を目指すために、東京シマダヤでは重油、電気について特に注目し活動しています。

工場（東京シマダヤ）の炭酸ガス排出量のうち、重油の使用によるものが3/4強ほど占めています。そのため重油の使用方法を見直し使用量を削減することが、炭酸ガス排出量削減に大きな影響を与えると認識しています。工場では、具体的な施策を検討し、日々取り組んでいます。

現場での様々な工夫（アイテム切り替え時にほくし蒸気の停止など）や設備改善、生産状況に応じてボイラーの細かい設定を変更するなど、ボイラーの燃焼方法を変更したことで、更に効率化がなされ重油の削減に繋がりました。

結果として2007年度の重油使用量は、2005年度比5%削減の目標に対し、13.4%の削減ができた目標を達成しました。

また、東京都環境確保条例に基づく地球温暖化対策計画書制度において、東京シマダヤでは2005年度にCO₂削減のための「地球温暖化対策計画書」を提出しました。このたび、3年目に提出する「地球温暖化対策中間報告書」に対し、2008年3月31日付通知書で石原都知事より「AA」の評価を受けました。内容は、東京都環境局のホームページ「地球温暖化対策計画書制度」(<http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/ondanka/index.html>)のページで公開されています。

地球温暖化対策計画書制度とは？

東京都が実施している制度で、温室効果ガスの排出量が相当程度多い事業所を対象に、地球温暖化対策計画書の提出・評価・公表を行うことで、事業活動に伴う二酸化炭素等の温室効果ガスの排出抑制を進め、地球温暖化の防止を図ることを目的としています。これは合わせて、都市の温暖化（ヒートアイランド）の抑制にもつながります。2005年度は、1,026の事業所が計画書を提出しています。

中間計画書の評価

基本対策に関する評価で、計画書の評価がA以上で、運用対策を全て実施していること。次に、総量削減率が0%以上または目標対策を実施し実績削減率が1%以上であること。これらを満たすと「AA」の評価になります。

オフィス部門での取り組み

シマダヤでは、2007年よりクールビズおよびウォームビズを実施しています。夏は軽装、冬は重ね着の工夫などで冷暖房の使用を控えています。適切な室温を保つために、遠目にも現在の温度がわかる温度計付の啓蒙ポスターを作成し、事業所内に掲示しました。

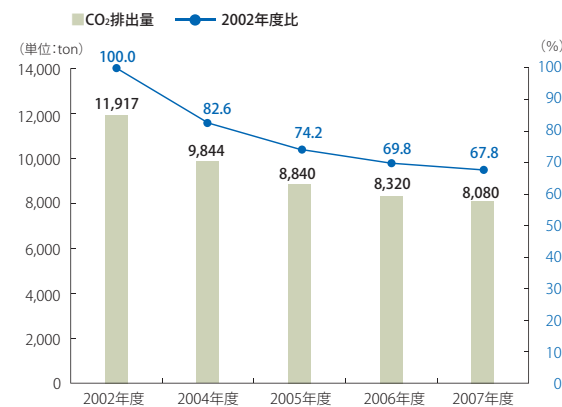
また、昼休みの消灯や長時間席を離れる際はパソコンの電源をオフにするなどの工夫で、電気使用量の削減を推進しています。

営業活動においては、回訪の効率化、エコドライブの推進、社用車の台数削減などにより、ガソリン使用量の削減に努めています。また、ハイブリッドカーのプリウスを2台導入しています。今後、必要に応じてハイブリッドカーなどの低公害車の導入を検討していきます。

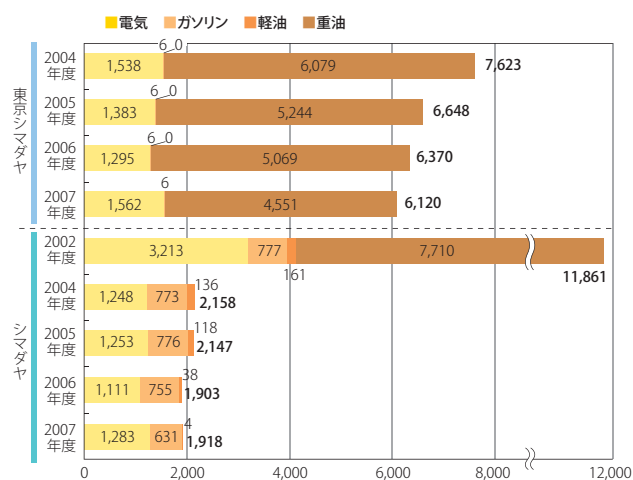


温度計付ポスター

CO₂排出量の推移



エネルギー種類別のCO₂排出量 (単位: ton)

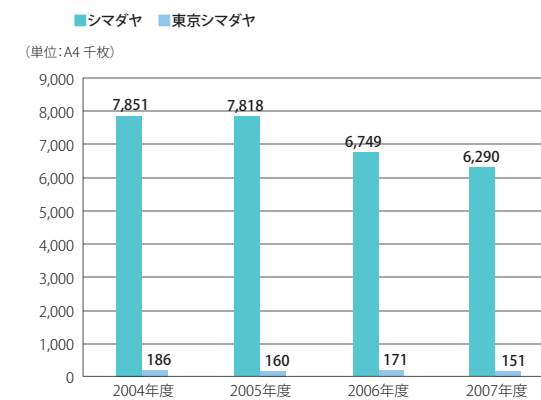


その他の取り組み

OA用紙の削減

OA用紙削減のために、業務の見直しや効率化を図っています。シマダヤでは、各種申請を紙ではなくパソコン上でできるようになっていますが、2007年度は更に対象の申請書を増やしました。これにより、業務の効率化および紙の使用量が削減されました。また、経理の決算資料や会計監査資料を順次データ化することで、従来廃棄していた紙を削減できました。その他にも、裏紙の利用や縮小印刷、パソコン上での確認など、引き続き取り組みを行っていきます。

OA用紙使用量の推移



継続的な教育

継続的な環境に関する教育・訓練を行っています。2006年度の役員・部門長を対象とした研修に続き、2007年度は各部門のグループの管理を任されているグループマネージャーを対象とした研修を実施しました。他に、新入社員研修、新任の環境推進担当者及び新任の内部監査員を対象とした環境研修、研修機関が実施する内部監査員養成研修への参加など、継続的な教育を実施しています。それぞれの立場から、業務を遂行する上で環境に配慮できる人材を育成しています。



グループマネージャー対象の研修

活動状況のチェック

年に1度内部監査を実施し、環境マネジメントシステムの維持向上に努めています。2008年5月現在、内部監査員は34名で2008年中に数名増員する予定です。内部監査を実施する前に、内部監査員全員を集めて監査方針の説明や、監査のロールプレイングなどを行い内部監査についての共有化を図ってから、内部監査を実施しております。

また、(財)日本規格協会審査登録事業部による定期的な審査を受け、2008年2月に更新審査後の定期維持審査を受けております。



外部審査の様子

法規制等の遵守について

当社に関係のある法規制等を「環境法規制等登録簿」に掲載し、法規制等毎に内容・届出書類の有無・管理者の必要性・管理部門などがわかるよう一覧にして、社内公開しています。毎年、法改正の確認、事業所に対しその地域の行政等から法規制等に関する指示などがなく確認を取り、必要に応じて改訂しています。毎年1回その部門が管理する法規制等の内容を掲載した「遵法性チェックリスト」を送付し、遵守されているか、逸脱がないか確認をしています。

産業廃棄物管理状況交付制度開始に伴い、2008年6月末までに、各事業所で排出した産業廃棄物のマニフェスト交付状況を各自治体へ提出しました。また、事業所閉鎖に伴い発生したPCB廃棄物の保管及び処分の状況を知事に届け出ました。

社内外のコミュニケーションを大事にしています

シマダヤは食品企業として「安全で健康的なおいしい商品」を提供することが大切と考えています。そのため、お客様の声を社内へ伝え、商品やサービスの面でお客様の満足を追求しています。

また、社会と共に歩む「企業市民」としての意識のもと、地域や社会に対する貢献活動を進めています。このような事業活動を通じて、お客様へおいしい笑顔をお届けしています。

内部コミュニケーション

環境推進担当者会議にて半期に1度、各部門の目的・目標に対する進捗および結果の発表、環境に関する勉強や議論などを行い、問題を共有化しています。従来、年4回開催していましたが、2008年度よりその内1回を環境会議とし、環境管理責任者が出席し各部門の進捗状況の共有化と今後の方向性を検討する場と改めました。

環境報告書の説明会を、環境報告書を作成した年から各部門毎に実施しています。積極的な情報公開の必要性、報告書の内容の説明、取り組みの成果などを説明しました。その後質疑応答を行い、共有化を図りました。

社内報「Happiness」に、環境に関する話題を適宜掲載し、啓発を行っています。また、社内イントラネットに「環境のひろば」を開設し、いつでも環境関連情報が見られるようにしております。



環境推進担当者会議

外部コミュニケーション

シマダヤでは、2008年5月に中学生の企業訪問を受け入れました。文部科学省の学習指導要領の改訂で、学校外での体験、特に中学生を対象とした職場活動に関する授業が増えていきます。シマダヤにも受け入れの打診があり、今回はじめて企業訪問の受け入れを行ないました。

当日は、企業概要の説明、家庭用商品の紹介、簡単な調理および試食などを実施しました。また、若手社員から、今の仕事を選んだ理由や、仕事をする上でのやりがいなどの話をし、生徒さん達にとって、働く目的や意義を考えるよい機会になったと考えています。

また、東京シマダヤでは、隣接マンションの住民の方をお招きし、工場見学とシマダヤ研究開発部による手打ちめんの体験ができる「製麺教室」を開催し、定期的にコミュニケーションをとっています。実際の生産現場を見ていただくこと、ご自身の手で打ったうどんの味を楽しんでいただくことで、シマダヤの事業活動やめんについて知っていただく貴重な機会であると感じています。



中学生の企業訪問

お客様の声を大事にしています

シマダヤでは「お客様相談室」を設置し、平日9:00～17:00までのフリーダイヤルにてお客様からのお問合せやお申し出に対応しています。商品を販売しているお店や、原材料などについてのお問い合わせに対して、常に親切、正確、迅速に誠意ある対応を心がけています。また商品に対する要望など、お客様からの声は、関係各部署と共有化されます。2007年度からは、「お客様の声検討会議」を設置し、社長・役員をはじめマーケティング、商品開発などの関連部署と改善・改良に向けて協議を行っています。

こうしたお客様からのご要望などのお声と、日頃の環境取り組みに関するトピックスを合わせて、「CSR通信」というお知らせを作成し、月1回社内へ発信し広く従業員に伝えています。



CSR通信

お客様の声を反映した改良点

お客様の中で塩分の摂取量を気にされる方からは、当社商品の塩分量についてのお問合せをいただきます。従来、当社商品には食品衛生法に基づいたナトリウム表示をしておりましたが、わかりやすい塩分相当量も合わせて表示することに致しました。焼そばや「鉄板麺」や「ゆであげ生パスタ」などから順次改訂しております。

栄養成分表示		栄養成分表示	
製品1食当たり(217g)		製品1食当たり(217g)	
エネルギー	370 kcal	エネルギー	370 kcal
たんぱく質	8.6 g	たんぱく質	8.6 g
脂質	6.3 g	脂質	6.3 g
炭水化物	69.8 g	炭水化物	70.2 g
ナトリウム	1.9 g	ナトリウム	1.9 g
		食塩相当量	4.7 g

旧表示

新表示

お申し出対応状況

2007年7月から2008年6月までの期間、夜間において騒音に関するお申し出が3件ありました。そのうち2件は輸配送車両によるもので、直ちに輸配送を委託している物流会社へ連絡し、トラック運転者に注意するとともに、再発防止のために、トラック待機場所の変更、並びに、夜間シマダヤ社員による定期的な騒音チェック及び指導を行なっています。

また1件は東京シマダヤのボイラー設備のトラブルによるものでした。工場では直ちに対処すると共に、メンテナンスの見直しを行ない、設備トラブルの発生防止に努めています。

美化活動の推進

シマダヤでは、本社の前の歩道を清掃する美化活動を始めました。常にきれいな状態でお客様をお迎えする為に、従業員自ら清掃をしています。



本社前の清掃

グループ会社への環境取り組み拡大

シマダヤは、フレッシュめん、冷凍めんおよびその他の関連商品の製造を、連結子会社5社とその他の複数会社に委託しています。

めん類の製造には、ボイラー燃料や電気など、加熱や冷却・冷凍のためにエネルギー、並びに井戸水などの天然資源を沢山使います。そのため環境負荷の高い製造部門の子会社工場についても、その低減を目指し環境取り組みの拡大を始めました。

子会社工場は東京シマダヤを含み7工場ありますが、シマダヤの環境マネジメントシステムを水平展開し、2年後を目途に残りの6工場について順次ISO14001の登録事業所としていきます。

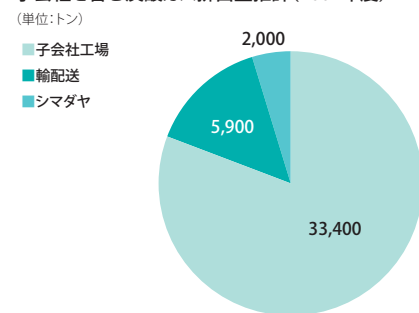
また子会社だけでなく、その他の委託先についてもエネルギーの使用量を把握し削減を進めていきます。

製造部門の環境負荷について

2007年度のシマダヤ商品の開発、子会社の製造、輸配送、営業活動によるエネルギー使用由来の総炭酸ガス排出量は4万1千トン強となります。子会社の製造時におけるエネルギー使用量は大きく、炭酸ガス排出量では3万3千トンとなり、全体の8割強を占めています。原単位では96.8g炭酸ガス排出量/1食製造となります。また製造のために使用する井戸水および水道水は100万トン強となり、水資源を多量に使用しています。

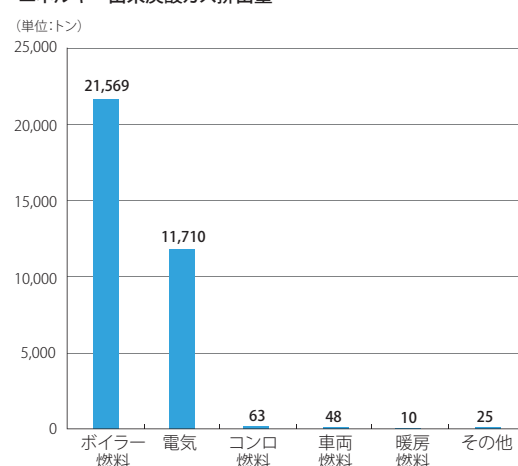
今後は既に実績のある東京シマダヤと同じように省エネルギー、省資源、廃棄物の削減およびリサイクルの取り組みを6工場に展開していきます。

子会社を含む炭酸ガス排出量推計(2007年度)



(輸配送時の炭酸ガス排出量の推計は、配送子会社は燃料使用量から、その他の委託輸配送は省エネルギー庁の輸送トンキロからの算出)

エネルギー由来炭酸ガス排出量



子会社工場の炭酸ガス排出量

(電気使用における炭酸ガス排出量は、東北エリアの工場は2006年度の東北電力、関東エリアは2007年の東京電力、中部エリアは2006年度の中部電力のCO₂排出量原単位により算出しています)

工場におけるエネルギーは、炭酸ガス排出量で、ボイラー燃料によるものが21,600トンで65%を占めます、次いで電気が11,700トンで35%になります。これら2つのエネルギーについて、無駄な使用がないか、もっと効率的に使えるか環境負荷の低減に取り組んでいきます。

子会社の環境取り組みの準備が始まりました

2008年7月に、環境管理責任者は子会社4社に対して、子会社社長へ環境取り組みをグループとして進める旨の方針説明を行ないました。

またシマダヤの環境マネジメントシステムを適合させるため、「シマダヤグループ環境基本方針」をはじめとしたマニュアル類を改訂しました。

それを受け、子会社社長が工場毎にキックオフのため従業員を集め、シマダヤと共に環境保全活動を行なうことを宣言しました。



工場におけるキックオフ

環境報告書2007アンケート

「シマダヤ環境報告書2007」について、合計76名の方からご回答をいただきました(2008年4月現在)。アンケートでお寄せいただいた貴重なご意見は、今後の報告書の作成に反映させていただきます。

ご意見・ご要望とその対応

「具体的な取り組み内容は興味深く拝見させて頂きました。達成状況は中期環境目的・目標に沿ってご報告されると更にわかりやすいと感じました。」 → 「中期環境目的・目標」の項目ごとに、取り組み内容と成果を掲載しました。

「エネルギー・廃棄物の削減は、どこの部署が何をして削減したのか、などわかりやすく説明があると良いと思った。」 → オフィス部門と工場で、それぞれの取り組み内容と成果を掲載しました。

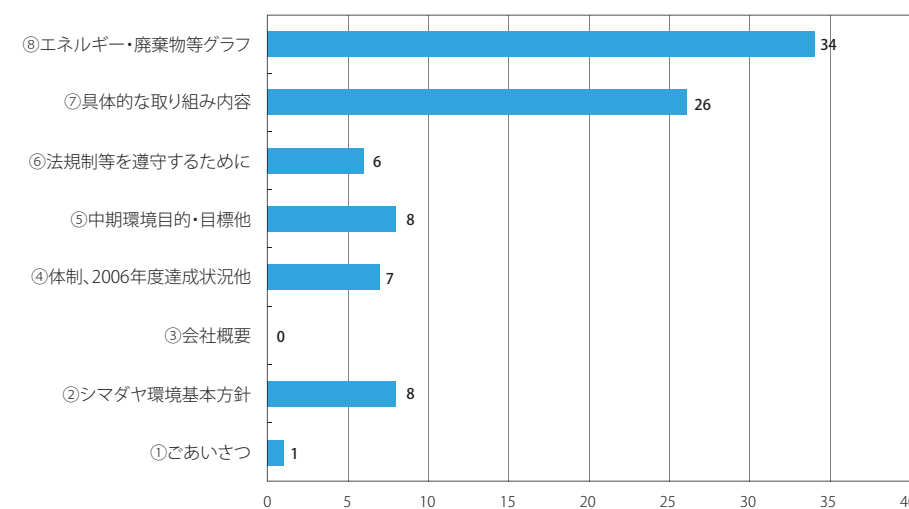
「食品リサイクル法についての説明がないので、どういう法かわかりません。」 → 8ページに概要を掲載しました。

「このアンケート用紙の紙の質が良すぎる。環境報告書ももう少し薄い紙質でもいいと思う。それだけで環境保護になるのでは？」 → 今号から、アンケート用紙を薄くしました。また、シマダヤの環境報告書はまだページ数が少ないため、ある程度の紙の厚みがないと冊子として成り立たないので、この紙を使用しています。なお、FSC認証の紙を使用し、インクや印刷方法も環境に配慮したものを採用しています。

「この紙(アンケート用紙)自体が取り組みに反しているのではないのでしょうか?その上、FAXで送ったら更に紙が増えます。ご検討ください。」 → 現在、読者とのコミュニケーションとしてアンケートによる回答、FAXでの受領が最も効果的と考えております。今後、配布数が増えた際は検討も必要かと考えます。

一番関心が高かったページは、エネルギー・廃棄物等グラフのページでした。

特に興味を持たれた項目はどれでしたか?





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

シマダヤ株式会社はチーム・マイナス6%に参加しています。

環境報告書に関して

シマダヤ株式会社

- お問合せ先 CSR推進室
- 所在地 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11
TEL.03-5489-5586 FAX.03-5489-5056



この印刷物は、有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには、VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用し、適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。